

# 温泉やもみ殻を熱源利用した豪雪地域での園芸ハウス栽培



【ハウス内の様子】



【もみ殻くん炭(焼却灰)】



【バイオマス(もみ殻)ボイラー】



【いちごジェラート】

## ＜概要＞

- ・ 事業主体：（株）千手（新潟県十日町市）
- ・ 運転開始時期：H18年10月(温泉熱利用)  
H25年11月(もみ殻熱利用)
- ・ 総事業費：約1,000万円
- ・ 燃料：温泉  
もみ殻（約50トン／年）

## ＜特徴的な取組＞

- ・ 地域の農家らが共同で設立した（株）千手は、地域の農地の7割をカバーする水稻等の土地利用型経営に加え、積雪で農地が使用できない冬期間における雇用の場を確保するため、近隣の温泉施設から供給される温泉の余熱を利用したいちごのハウス栽培を開始。
- ・ また、規模拡大に伴い増設したいちご栽培ハウスにおいては、稲作の副産物であるもみ殻を利用したバイオマスボイラーによりハウス内を暖房することで、燃料代を灯油ボイラーのみと比べ約5割削減。焼却灰は、土壌改良材や融雪材として販売。
- ・ 生産されたいちごは、生食用のほか、いちごジェラートなどに加工し、近隣の直売施設などで販売。
- ・ いちご栽培ハウスは、観光農園としても活用しており、いちご狩りに訪れる観光客などが増えることで、地域のにぎわい創出に貢献。